

輸出事業計画

※申請者名：株式会社みちのくクボタ、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・日本国内の米需要の減少を見据え、海外における日本産米の販路開拓による新たな需要創出を図ることを目的に、クボタと連携しながら平成27年から輸出用米の取組を開始。
- ・輸出先は、香港、シンガポール。いずれも家庭内食よりも中食・外食の比率が高いため、業務用をメインに販売。
- ・青森県に加え、県内各市町村も輸出米の取組意向が増えており、令和2年には七戸町、クボタと連携協定を締結し、行政と一体となった推進体制を構築することで、更なる取組拡大を目指している。

【課題】

＜生産段階＞

- ・海外産米との価格差や業務用という用途を考慮すると、日本国内での一般的な主食用米と比べて、コスト競争力が最大の課題となる。

＜流通段階＞

- ・輸出拡大に向け集荷量拡大を図る必要があるが、集荷業務のマンパワー確保及び輸出米を保管するための低温倉庫の確保が難しい。

＜販売段階＞

- ・タイ産長粒種などの海外産米と競合する中で、現地の外食事業者及び消費者に対し、日本産米の特徴や魅力をどのように訴求していくかが課題となる。

2. 輸出事業計画の取組内容

＜生産段階＞

- ・本業である農業機械メーカーのグループ企業として、令和7年度までに、田植機・トラクタ・コンバインの自動運転やKSAS（KUBOTA Smart Agri System）などのスマート農業、鉄コーティング直撒栽培などの省力栽培技術を生産者へ提案し、輸出用米生産者の省力化や低コスト生産に貢献していく。

＜流通段階＞

- ・令和5年にかけて、クボタグループによる生産者との交渉及び取りまとめ、米穀販売事業者による集荷・検査、倉庫業者による保管のように更なる分業化を推進していき、数量増加及び通年保管に対応できる体制を構築するべく、関係企業を増やしていけるよう交渉を進めていく。

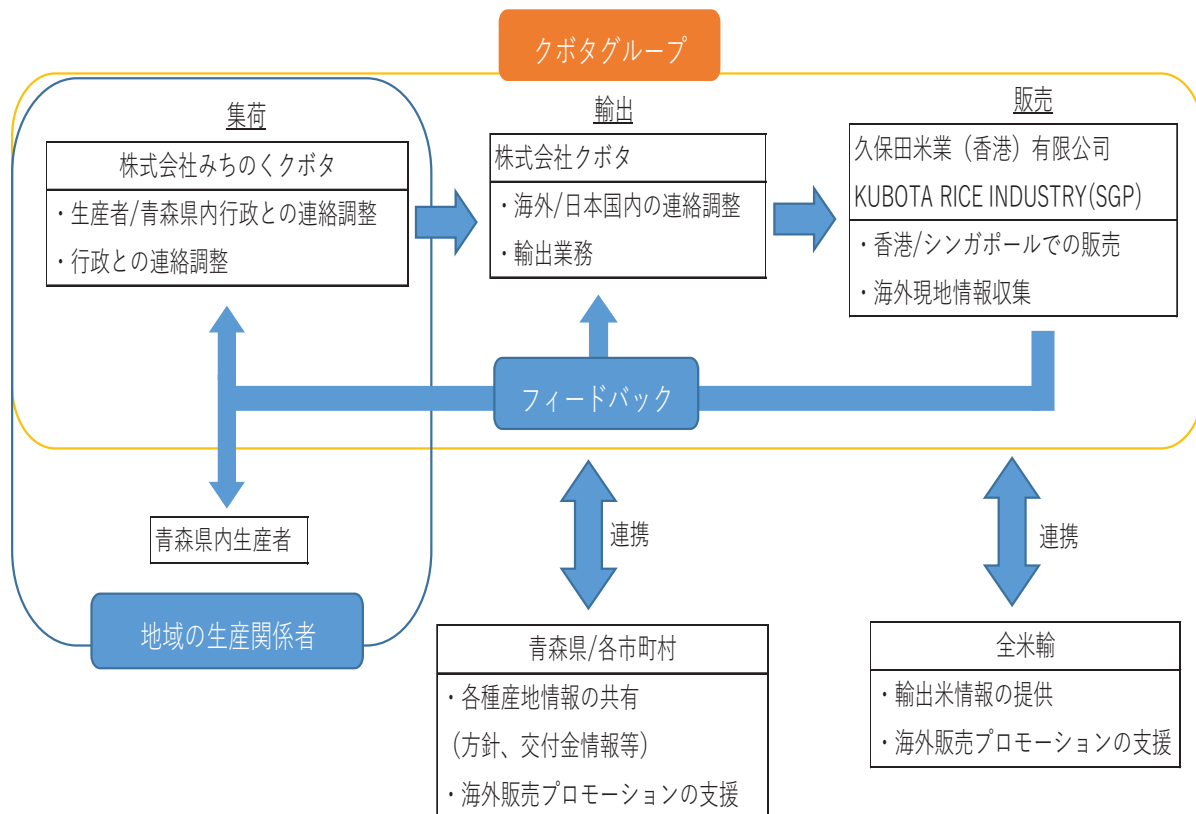
＜販売段階＞

- ・全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会による海外産米との比較調査結果等を活用しながら、海外産米との違いを現地の外食事業者や最終需要者に訴求していくとともに、業務用米適性が高く、長粒種から短粒種への転換に期待できる品種にて、令和7年度までに日本食のみならず中華料理などへの使用拡大を目指していく。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社みちのくクボタ、品目：コメ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



役割分担

・生産：青森県内生産者

・生産者取りまとめ・集荷：みちのくクボタ

・輸出：クボタ

・販売：久保田米業（香港）及びKUBOTA RICE INDUSTRY(SGP)

4. 輸出目標額

	現状 (令和2年度)	目標年 (令和7年度)
輸出額（千円）	27,000	160,000
輸出量（t）	200	1,200
輸出先国	香港、シンガポール	香港、シンガポール